

- 当社は、2025年度第4回のALPS処理水海洋放出を、9月11日午前11時25分から実施しています。
- 放出期間中は、ALPS処理水（トリチウム）の希釈が適切に行われているか毎日確認することを目的に、海水で希釈後の水のトリチウム濃度を分析し、トリチウム濃度が計算上の濃度と同程度であることおよび1,500ベクレル/ℓ未満であることを確認しています。
- また、発電所から3km以内の10地点および発電所正面の10km四方内の4地点においては、海水のトリチウム濃度の分析結果を迅速に得ることを目的に、検出限界値を10ベクレル/ℓ程度に上げた分析を実施し、トリチウム濃度が放出停止判断レベル（700ベクレル/ℓ※¹または30ベクレル/ℓ※²）および調査レベル（350ベクレル/ℓ※¹または20ベクレル/ℓ※²）以下であることを確認しています。

※1 発電所から3km以内の10地点 ※2 発電所正面の10km四方内の4地点

<2025年9月28日までにお知らせ済み>

- 2025年度第4回のALPS処理水海洋放出は、約460m³/日の放出量で安定的に推移し、海水中のトリチウム濃度についても、当社が実施する迅速な分析の結果等から、計画的に安全に行われていることを確認しています。
- 測定・確認用設備B群からのALPS処理水の移送が、9月28日午後4時28分に終了し、ALPS処理水移送ラインの配管内に残っている水（ALPS処理水）の、ろ過水による押し流しが、9月29日午後0時5分に終了したことをもって、2025年度第4回のALPS処理水海洋放出が完了しました（総放出水量：7,872m³、トリチウム総量：約1.7兆ベクレル）。
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

【参考】2025年度ALPS処理水放出計画（1/2）

- 2025年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数7回、1回当たりの放出水量約7,800m³、年間放出水量約54,600m³、年間放出トリチウム量約15兆ベクレルを計画。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	※4	放出開始時期
25-1-12	G4南エリアB群（測定・確認用設備 A群に移送） K3エリアA/B群 ※5(測定・確認用設備 A群に移送)	: 約8,080m ³ : 約910m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45～0.55※6 トリチウム濃度 : 22万～37万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 2.8 兆ベクレル	4月
25-2-13	K3エリアA/B群 ※5(測定・確認用設備 C群に移送) J1エリアE群（測定・確認用設備 C群に移送）	: 約6,970m ³ : 約820m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45～0.62※6 トリチウム濃度 : 22万～38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 1.9兆ベクレル	6～7月
25-3-14	J1エリアE群（測定・確認用設備 A群に移送） G5エリアE群（測定・確認用設備 A群に移送）	: 約7,300m ³ : 約480m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47～0.62※6 トリチウム濃度 : 20万～38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 2.9兆ベクレル	7～8月
25-4-15	G5エリアE/C/B群（測定・確認用設備 B群に移送）	: 約8,970m ³	※4 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47～0.62※6 トリチウム濃度 : 20万～22万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 1.6兆ベクレル	9月

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 下線部は実績値を示す。

※4 受入先の測定・確認用タンクA・B群はタンク点検後で残水が無い状態のため、移送量としては合計約9,000m³となる（放出水量は約7,800m³）。

※5 K3エリアA/B群は、2023年度および2024年度に移送・放出により空になったところへ再度ALPS処理水の受け入れを実施。

※6 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※7 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

【参考】2025年度ALPS処理水放出計画（2/2）

		前スライドより		
管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3		放出開始時期
25-5-16	G5エリアB/A群（測定・確認用設備 C群に移送）	: 約7,780m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47～0.59※4 トリチウム濃度 : 22万～26万ベクレル/ℓ ※5 トリチウム総量 : 1.9兆ベクレル	10～11月
25-6-17	G5エリアA/D群（測定・確認用設備 A群に移送） G4北エリアA/B群（測定・確認用設備 A群に移送）	: 約4,000m ³ : 約3,800m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.46～0.76※4 トリチウム濃度 : 26万～30万ベクレル/ℓ ※5 トリチウム総量 : 2.2兆ベクレル	11～12月
点検停止（測定・確認用設備 C群タンクの本格点検含む）				
25-7-18	G4北エリアA/B群（測定・確認用設備 B群に移送） H2エリアJ群（測定・確認用設備 B群に移送）	: 約3,700m ³ : 約4,100m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.58～0.78※4 トリチウム濃度 : 26万～27万ベクレル/ℓ ※5 トリチウム総量 : 2.0兆ベクレル	3月

➡ 2025年度放出トリチウム総量 : 約 **15兆** ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 下線部は実績値を示す。

※4 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※5 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

[参考] 迅速に結果を得る測定の実モニタリング計画

- 当社は、2023年8月の放出開始以降、下図に示す枠内の14地点で、迅速に海水中のトリチウム濃度を確認するためのモニタリング（検出限界値10ベクレル/ℓ程度）を実施しています。なお、「放出停止判断レベル（図中記載）」を超えた場合には、海洋への放出を停止します。

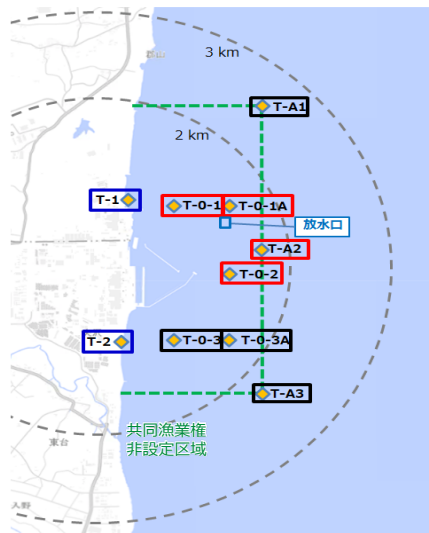


図1 試料採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

□ □: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）

指標（放出停止判断レベル） 700ベクレル/ℓ

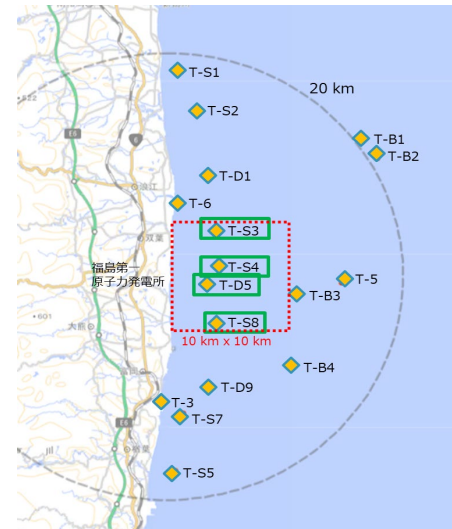


図2 試料採取地点 発電所正面の10km四方内

□: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）

指標（放出停止判断レベル） 30ベクレル/ℓ

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内 4地点 □
	放水口周辺4地点 □	その他6地点 □ □	
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8:月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う

※2 2023年8月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した

(2023年12月25日公表)